

令和4年度 全国学力・学習状況調査（6年）の結果と今後の取組について

全国の小学校6年生を対象にした全国学力・学習状況調査が4月19日に実施され、結果が公表されました。6年学級の平均正答率をみると、正答率では、実施された国語・算数・理科の教科において、3教科ともに着実に全国・県平均を上回る結果となっており、概して着実に学力が定着している結果となっております。ただし、学力の定着度には、大きな個人差があるという実態もあります。個々の結果を個別指導に生かしていくとともに、調査結果の分析を基に6年生をはじめ全学級で、さらに授業改善(主体的・対話的で深い学び、つきたい力を明確にした授業等)をしていきます。

授業改善とともに、家庭学習の充実・個別の指導に関わっては、家庭と連携して取組を進めます。

【全国学力・学習状況調査の結果について】 ※A-知識・技能 B-思考・判断・表現力



	国語			算数			理科		
	総合	A	B	総合	A	B	総合	A	B
八重東小	75.0	81.9	69.0	71.0	74.6	67.1	74.0	74.6	73.9
広島県	67.0	72.4	63.8	64.0	65.2	58.1	66.0	65.2	66.0
全国	65.6	70.5	62.0	63.2	62.5	56.7	63.3	62.5	63.7

【正答率-%】

【学力調査の結果分析と今後の取組】

《国語》

◎ 問題別では、特に正答率が高いのは「話し言葉と書き言葉を理解している」「文章全体の構成・書き表し方等に着眼して文や文章を整える」「必要なことを質問し話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる」こと等の項目であった。

⇒【課題と取組】「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「登場人物の行動や気持ち等について、叙述を基にとらえる」「表現の効果を考える」「漢字を文の中で正しく使う」等については、正答率が低い児童がいたので、目的に応じて本や文章全体を概観して中心となる語や文を見つけること・叙述に着眼して登場人物の心情を読み取ること、新出漢字を使って作文すること、作文推敲を丁寧に行うこと、新出漢字の指導等について指導を工夫して授業づくり・指導を行う。

《算数》

◎ 問題別では、特に正答率が高いのは「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求めることができる」「二つの数の最小公倍数を求めることができる」「正三角形の意味・正三角形の構成の仕方について考察し記述できる」「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し平行四辺形であることを判断できる」等の項目であった。

⇒【課題と取組】「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」「百分率で表された割合を分数で表すことができる」「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」については、正答率が低い児童がいたので、算数的な活動を授業で大切に、一人でじっくりと考える場を設けるとともに、百分率・グラフ等の意味の理解・多様な読み取りができる指導を行ったり、自分の考えの根拠を説明させたりして、数学的な考え方を伸ばす授業づくり・指導を行う。

《理科》

◎ 問題別では、特に正答率が高いのは「自分で発想した予想と実験の結果を基に問題に対するまとめを検討・改善し自分の考えを持つことができる」「自分で発想した実験方法と追加された情報を基に実験方法を検討・改善し自分の考えを持つことができる」等の項目であった。

⇒【課題と取組】「指示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つことができる」「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して解釈し自分の考えを持ち、その内容を記述できる」については、正答率が低い児童がいたので、授業での実験や観察の仕方の技能の習得、実験・観察後に理由や原因を説明する文章(考察)を独力で書かせ集団で検討すること、学習内容を生活場面と結びつけさせたり、自分の考えを理科学語を使って説明させること等について工夫した授業づくり・指導を行う。

《学習・生活アンケートについて》

「生活と学習、教科の学習に関する調査」も併せて行われた。国や県の肯定的な回答の割合と比較して顕著に上回るものとしては、生活に関わっては「自分にはよい所がある」「将来の夢や目標を持っている。」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」「人が困っている時は進んで助けている」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのが楽しい」「友達と協力するのは楽しいと思う」「読書が好きである」「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」、教科の学習に関わっては、「自分で計画を立てて勉強している」「勉強が好きである」「学習の内容がよく分かる」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」「学習したことは将来社会に出た時に役立つと思う」「学習で問題の解き方が分からない時はあきらめずにいろいろな方法を考えている」「授業で公式やきまりを習う時その訳を理解するようにしている」「学習することは大切だと思う」等の項目だった。

⇒【課題と取組】「課題の項目としては、生活では「新聞を読んでいる」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている・自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「各教科等で学んだことを生かしながら自分の考える活動をしている」、学習では「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレット等のICT機器をよく使っている」「学校で意見を発表したり交換したりする時に、PC・タブレット等のICT機器をよく使っている」の項目があげられる。PC・タブレット端末の使用に関わって、児童の技能を向上させること、学びを深める場で積極的に活用する授業づくりさらに進める。

※ 課題克服の取組については、6学年のみでなく全学級で発達段階に沿って指導を工夫し、基礎学力の定着・よりよい生活習慣の定着をめざしていきます。